



# ニッポン ドクター和の 臨終図巻

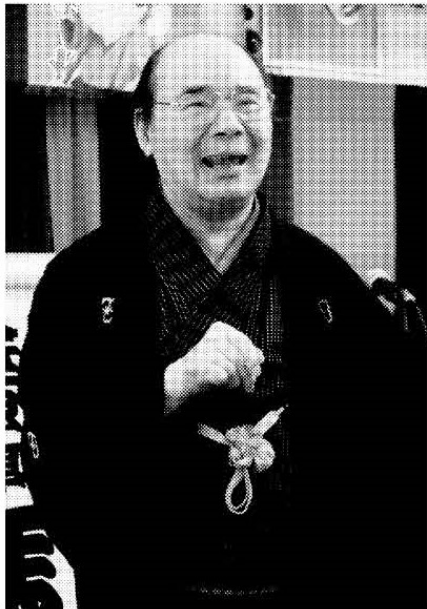
長尾和宏 (ながお・かずひろ) 医学博士。東京医大卒業後、大阪大第二内科入局。1995年、兵庫県尼崎市で長尾クリニックを開業。外来診療から在宅医療まで「人を診る」総合診療を目指す。この連載が『平成臨終図巻』として単行本化され、好評発売中。関西国際大学客員教授。

この連載で桂歌丸さんについて書いたのは2018年夏のこと。長年にわたり国民に笑いを届けてくれた、『笑点』メンバーがまた一人、旅立ちました。「1、2、3、チャラン」

「こん平です！」の明るい挨拶で人気だった落語家の林家こん平さんが、昨年12月17日に都内の自宅で亡くなりました。享年77。死因は、誤嚥性肺炎との発表ですが、こん平さんは長年、多発性硬化症という難病と闘っておられました。

多発性硬化症とは、免疫細胞が中枢神経や視神経に炎症を起こす「自己免疫疾患」です。自己免疫疾患とは、何らかの理由により、本来、自分の身体を守るはずの免疫系に異常が起きて自分自身の正常な細胞や組織をなぜか「敵」と認識し攻撃して

## 188 落語家 林家こん平



多発性硬化症は、脳や脊髄の複数に免疫異常が起こること

(だから多発性といいますが特徴で、場所により症状も全く違ってきます。しかも、治ったと思えばまた悪化し再発を繰り返す悩ましい病気です。比較的好くみられる症状としては、痛みや痺れなどの感覚障害、歩行困難などの運動障害、視力低下や視覚障害、認知症やうつ状態などもあります。

こん平さんは04年に声が出なくなり入院。1966年の放送開始以来、ほぼ無休で出演していた『笑点』を泣く泣く休業。そして翌年の2005年に多発性硬化症との診断を受けまし

## 多発性硬化症で長年闘病

た。もう2度と「チャラン」が聞けないのかとファンを悲しませましたが、その後、病状を隠すことなく得意の卓球をするところや、リハビリの様子をテレビで紹介したり、講演会活動などで多発性硬化症の理解を広げるとともに、同じ病気の方々に元気づけました。10年には『チャランポラン闘病記』という本まで出版されています。しかし13年には、糖尿病が悪化。壊死(えし)した左足の指を切断。心肺停止から一命をとりとめました。

そんな中、こん平さんは、昨年開催されるはずであった東京パラリンピックの応援大使に任命。「1、2、3、パララン」という新ネタも披露しました。長い長い闘病を支えたものは、ご家族の献身的な介護と『笑点』への復帰、パラリンピック出場の夢。そして持ち前の明るさだったのでしょう。夢と笑いを絶やさず生きることは、最高の治療法なのです。

# 夢と笑いが最高の治療法